

『チーム医療』に関するアンケート

～ 集計結果報告 ～

日本慢性期医療協会「診療の質委員会」
委員長 武久 洋三
副委員長 矢野 諭

急性期・慢性期を問わず、『チーム医療』の推進による「多職種による多角的な診療体制」や「効率化」は診療の質を構成する重大な要素である。

当会ではかねてから、従来の診療報酬が医師と看護師の配置数のみにより算定されていることの不合理を指摘し、見直しを主張してきた。そのためには、来年度の診療報酬改定を見据えた、確固たるデータを提示する必要がある。

このような観点から、コメディカルがどのように病棟に配置され、いかに多くの病棟業務に関わり、効率化にも大きく貢献してきたことを明らかにするために、当「診療の質委員会」では、本年4月に『チーム医療に関するアンケート調査』を実施した。

結果（別表）を要約すると、下記の通りである。

調査対象：会員 818 施設 回答施設数 197 施設

どの病床種別においても、50%以上の病棟においてコメディカル職員が配置されている。

病棟専従として、リハビリスタッフ、医療クラーク、薬剤師、社会福祉士の専従が多い。

チーム医療でリーダーを担うと回答したのは、医師、看護職員が圧倒的に多いが、それ以外の職種では、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、介護職員、社会福祉士、作業療法士、事務職員、言語聴覚士の順に多い。まさに多職種で患者の医療・ケアが行われていることが読み取れる。

看護・介護の負担軽減につながる職種として、医療クラーク、リハビリスタッフ、薬剤師が上位にあげられている。

病院では、多職種で構成される、さまざまな会議が開催され、直接ケアだけでなく間接的ケアの時間も多い。

病棟看護業務の効率化のために、薬剤師への薬剤管理、医療クラークへの書類管理への期待が寄せられている。

以上のアンケート結果から、日本慢性期医療協会としてチーム医療の評価について今後強く要望していきたいと考える。